

国指定史跡
長柄桜山古墳群第1号墳
発掘調査報告書

史跡整備に伴う発掘調査

2012

逗子市教育委員会・葉山町教育委員会

例 言

- 1 本書は、神奈川県逗子市桜山、三浦郡葉山町長柄に所在する国指定史跡長柄桜山古墳群第1号墳で行った発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、文化財保存事業関係国庫補助・県費補助を受け、国指定史跡長柄桜山古墳群調査指導委員会（平成18・19年度）、国指定史跡長柄桜山古墳群整備基本計画策定委員会（平成20・21年度）の助言指導の下、史跡整備に係る情報収集を目的とした学術調査として実施した。

国指定史跡長柄桜山古墳群調査指導委員会（平成18・19年度）

委員長	小林 三郎	明治大学教授・故人（平成18年度）
	望月 幹夫	独立行政法人東京国立博物館上席研究員：当時（平成19年度）
委員	稲村 繁	横須賀市自然・人文博物館学芸員
	北條 芳隆	東海大学文学部教授

国指定史跡長柄桜山古墳群整備基本計画策定委員会（平成20～22年度）

委員長	望月 幹夫	独立行政法人東京国立博物館特任研究員
副委員長	東家 洋之助	葉山町公募委員
委員	稲村 繁	横須賀市自然・人文博物館学芸員
	北條 芳隆	東海大学文学部教授
	持田 幸良	横浜国立大学教育人間科学部教授
	規矩 大義	関東学院大学工学部教授
	田中 洋子	逗子市公募委員
	中村 誠	逗子市公募委員
	永津 雄子	葉山町公募委員
	竹内 敏春	逗子市教育委員会教育部社会教育課長（平成20・21年度）
	杉山 光世	逗子市教育委員会教育部次長（社会教育課長事務取扱）（平成22年度）
	鈴木 勉	葉山町教育委員会教育部生涯学習課長（平成20・21年度）
	沼田 茂昭	葉山町教育委員会教育部生涯学習課長（平成22年度）
助言者	市原 富士夫	文化庁文化財部記念物課文化財調査官
	清野 孝之	文化庁文化財部記念物課文化財調査官：当時
	近野 正幸	神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課副主幹
	井澤 純	神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課主査

- 3 発掘調査の調査主体、担当者は次のとおりである。

調査主体 逗子市教育委員会・葉山町教育委員会

調査担当者 佐藤仁彦（逗子市教育委員会社会教育課）

山口正憲（葉山町教育委員会生涯学習課）

- 4 発掘調査補助業務は、有限会社吾妻考古学研究所に委託した。
- 5 本書の執筆は佐藤仁彦、山口正憲が行った。
- 6 出土品等整理事業補助業務は、有限会社吾妻考古学研究所に委託した。
- 7 埴輪・土器の胎土分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
- 8 炭化材の放射性炭素年代測定は、パレオ・ラボ株式会社に委託した。
- 9 花粉分析はパレオ・ラボ株式会社に委託した。
- 10 テフラの分析は、上本進二氏（神奈川災害史研究会）に依頼した。
- 11 本報告で使用する第1号墳測量図の作成は、株式会社朝日航洋に委託した。
- 12 本書にかかる出土品、記録図面類及び写真等は、逗子市教育委員会・葉山町教育委員会が保管している。
- 13 発掘調査及び出土品の整理・報告作業に際しては、以下の諸氏にご助言、ご協力を賜りました。記して感謝いたします。

秋元陽光、東 真江、新井 悟、池田 治、井澤 純、伊丹 徹、市原富士夫、上本進二、植山英史、大塚初重、岡本孝之、小黒智久、小澤重雄、押方みはる、及川良彦、賀来孝代、柏木善治、加部二生、川西宏幸、車崎正彦、佐藤祐樹、霜出俊裕、白井久美子、清野孝之、高橋 和、立花 実、田中新史、田中 裕、谷口 肇、田村晃一、近野正幸、手塚直樹、寺田兼方、伝田郁夫、富永樹之、長岡史起、中嶋由紀子、中三川昇、西川修一、比田井克仁、日高 慎、広瀬和雄、深澤敦仁、藤沢 敦、古屋紀之、林 美佐、梶淵規彰、松尾宣方、柳沼賢治、文化庁、神奈川県教育委員会、長柄・桜山古墳をまもる会（敬称略）

- 14 発掘調査及び出土品等整理の参加者は以下のとおりである。

発掘調査

竹内 文、政岡明弘、荒井洋征、岡勇次郎、小野元義、加藤彦三郎、金山洋子、金子正男、川島裕毅、坂本孝彰、相良晴彦、高梨きよ子、館 裕樹、土田春美、長澤由人、根本志保、根本 公、橋本正美、福田正勝、堀部敏樹、松本厚子、三ッ野かおる、三橋 登、村田和香奈、望月義仁、山下勝寿

出土品整理

竹内 文、政岡明弘、小峰千秋、高梨きよ子、武山奈津枝、長澤由人、成瀬明美、三ッ野かおる

凡 例

- 1 本報告書内の座標はすべて世界測地系に基づく。
- 2 挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。
トレンチ平面図・断面図：1/100、一部 1/120、埴輪・土器実測図・拓影図：1/4、1/3、古銭：2/3
- 3 長柄桜山古墳群に関する調査履歴については、次のように整理している。
トレンチの名称は、既往の調査については、第2次調査1トレンチと呼称し、今回報告する第3次～第6次調査は単に1トレンチ、2トレンチと呼称する。
- 4 遺物番号はトレンチごとに1から連番で付した。

目次

序文

例言

第1章 調査概要	1
第1節 調査にいたる経緯	1
第2章 遺跡概観	3
第1節 立地と環境	3
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の方法とその経過	11
第1節 調査の方法	11
第2節 調査の経過	12
(1)発掘調査の経過	12
(2)出土品等整理作業の経過	16
第4章 基本層序	17
第5章 調査の結果	19
第1節 各トレンチの概要	19
第6章 自然科学分析	89
第1節 埴輪・土器の胎土分析	89
第2節 放射性炭素年代測定	95
第3節 長柄桜山古墳群の花粉化石	98
第4節 長柄桜山第1号墳のテフラ分析	108
第7章 まとめ	119
第1節 第1号墳の墳丘について	119
(1)墳丘の平面形態について	119
(2)段築について	122
(3)外表施設について	123
(4)墳丘規模・形態の比較	123

第2節 出土遺物について	126
(1) 円筒埴輪	126
(2) 壺形埴輪	129
(3) 土器	130
第3節 総括	132
(1) 第1号墳の調査成果	132
(2) 長柄桜山古墳群築造の意義について	132
(3) おわりに	134

図版目次

図版 1	- 1 史跡遠景 (北から)	- 5 12 トレンチ 墳丘断ち割り状況 (南西から)
	- 2 第1号墳全景 (西から)	- 6 12 トレンチ 土層堆積状況 (南東から)
図版 2	- 1 1 トレンチ 全景 (東から)	- 7 13 トレンチ 全景 (南東から)
	- 2 1 トレンチ 後円部西側埴輪 (北東から)	図版 11
	- 3 1 トレンチ 後円部埴輪列検出状況 (北から)	- 1 13 トレンチ 段築テラス1 (東から)
	- 4 1 トレンチ 墳頂部埴輪列検出状況 (北東から)	- 2 13 トレンチ 段築テラス2 (北西から)
図版 3	- 1 2 トレンチ 全景 (北東から)	- 3 13 トレンチ 埴輪断ち割り状況 (北東から)
	- 2 2 トレンチ 中段テラス (北東から)	- 4 13 トレンチ 土坑検出状況 (北東から)
	- 3 2 トレンチ 段築確認状況 (北から)	図版 12
	- 4 2 トレンチ 中段テラス遺物検出状況1 (北西から)	- 1 14 トレンチ 全景 (南西から)
	- 5 2 トレンチ 中段テラス遺物検出状況2 (北から)	- 2 14 トレンチ 埴輪検出状況 (南東から)
図版 4	- 1 3 トレンチ 全景 (南東から)	- 3 14 トレンチ 墳丘盛土検出状況 (北西から)
	- 2 3 トレンチ 土層堆積状況 (東から)	- 4 14 トレンチ 墳頂部検出状況1 (北から)
	- 3 3 トレンチ 遺物検出状況 (南東から)	- 5 14 トレンチ 墳頂部検出状況2 (南西から)
	- 4 3 トレンチ 墳頂部埴輪列検出状況 (南から)	- 6 14 トレンチ 段築テラス検出状況 (南東から)
	- 5 4 トレンチ 全景 (北西から)	- 7 14 トレンチ テラス付近盛土断ち割り状況 (南西から)
	- 6 4 トレンチ 全景 (南東から)	- 8 14 トレンチ 前方部墳頂部盛土断ち割り状況 (南西から)
	- 7 4 トレンチ 埴輪検出状況 (南から)	図版 13
図版 5	- 1 5 トレンチ 全景 (南西から)	- 1 14 トレンチ 前方部墳頂部盛土 (南から)
	- 2 5 トレンチ くびれ部埴輪 (南から)	- 2 15 トレンチ 全景 (北東から)
	- 3 5 トレンチ 埴輪土層堆積状況 (南から)	- 3 15 トレンチ 隆起斜道検出状況 (南から)
	- 4 5 トレンチ 段築下段テラス (南から)	- 4 15 トレンチ 西側段築中段テラス (南西から)
	- 5 5 トレンチ 段築中段テラス (南東から)	- 5 15 トレンチ 東側墳丘斜面 (東から)
図版 6	- 1 5 トレンチ 遺物出土状況1 (西から)	図版 14
	- 2 5 トレンチ 埴輪検出状況2 (東から)	- 1 15 トレンチ 遺物出土状況1 (西から)
図版 7	- 1 5 トレンチ 埴輪遺物出土状況1 (西から)	- 2 15 トレンチ 遺物出土状況2 (南西から)
	- 2 5 トレンチ 埴輪遺物出土状況2 (北から)	- 3 16 トレンチ 全景 (北東から)
	- 3 5 トレンチ 中段テラス遺物出土状況1 (南から)	- 4 16 トレンチ 埴輪西側傾斜地形 (西から)
	- 4 5 トレンチ 中段テラス遺物出土状況2 (北から)	- 5 17 トレンチ 全景 (北西から)
	- 5 6 トレンチ 全景 (北西から)	図版 15
	- 6 6 トレンチ 墳丘盛土検出状況 (西から)	- 1 17 トレンチ 全景 (南西から)
	- 7 6 トレンチ 遺物出土状況 (北西から)	- 2 17 トレンチ 遺物出土状況1 (南東から)
図版 8	- 1 7 トレンチ 全景 (南東から)	図版 16
	- 2 7 トレンチ 中段テラス (北東から)	- 1 17 トレンチ 遺物出土状況2 (西から)
	- 3 7 トレンチ 中段テラス遺物出土状況1 (北東から)	- 2 17 トレンチ 遺物出土状況3 (南から)
	- 4 7 トレンチ 中段テラス遺物出土状況2 (南東から)	- 3 17 トレンチ 遺物出土状況4 (東から)
	- 5 8 トレンチ 全景 (南西から)	- 4 17 トレンチ 遺物出土状況5 (東から)
図版 9	- 1 8 トレンチ 墳丘検出状況 (南東から)	- 5 17 トレンチ 陥没坑覆土内遺物出土状況1 (南西から)
	- 2 8 トレンチ 遺物出土状況 (南西から)	図版 17
	- 3 9 トレンチ 全景 (北西から)	- 1 17 トレンチ 陥没坑覆土内遺物出土状況2 (南から)
	- 4 9 トレンチ 埴輪検出状況 (南西から)	- 2 17 トレンチ 陥没坑覆土内遺物出土状況3 (北西から)
	- 5 9 トレンチ 埴輪西側傾斜地形 (南東から)	- 3 17 トレンチ 陥没坑内覆土遺物出土状況4 (南東から)
	- 6 10 トレンチ 全景 (北西から)	- 4 17 トレンチ 陥没坑覆土堆積状況 (北東から)
	- 7 10 トレンチ 墳丘盛土検出状況 (西から)	- 5 17 トレンチ 後円部墳頂部盛土断ち割り状況1 (北西から)
図版 10	- 1 10 トレンチ 2次調査断ち割り状況 (北から)	図版 18
	- 2 11 トレンチ 全景 (北東から)	- 1 17 トレンチ 後円部墳頂部盛土断ち割り状況2 (北西から)
	- 3 11 トレンチ 墳丘盛土断ち割り状況 (北西から)	- 2 17 トレンチ 後円部墳頂部盛土断ち割り状況3 (北東から)
	- 4 12 トレンチ 全景 (南から)	- 3 17 トレンチ 後円部墳頂部盛土断ち割り状況4 (南東から)
		- 4 17 トレンチ 後円部墳頂部盛土断ち割り状況5 (東から)
		- 5 17 トレンチ 後円部墳頂部盛土 (北西から)

図版 19	- 1 17 トレンチ 後円部地すべり痕跡確認状況 1 (北西から)	図版 25	- 6 5 トレンチ出土遺物 (12)
	- 2 17 トレンチ 後円部地すべり痕跡確認状況 2 (東から)		- 1 5 トレンチ出土遺物 (13)
	- 3 17 トレンチ 粘土礫検出状況 1 (南西から)	図版 26	- 2 5 トレンチ出土遺物 (14)
図版 20	- 1 17 トレンチ 粘土礫検出状況 2 (東から)		- 1 5 トレンチ出土遺物 (15)
	- 2 17 トレンチ 粘土礫検出状況 3 (南東から)		- 2 6 トレンチ出土遺物
	- 3 18 トレンチ 全景 1 (北西から)	図版 27	- 3 7 トレンチ出土遺物 (1)
	- 4 18 トレンチ 全景 2 (西から)		- 1 7 トレンチ出土遺物 (2)
	- 5 18 トレンチ 墳裾検出状況 (北東から)		- 2 8 トレンチ出土遺物 (1)
	- 6 後円部墳頂部埴輪列 1 (南西から)		- 3 8 トレンチ出土遺物 (2)
	- 7 後円部墳頂部埴輪列 2 (南西から)	図版 28	- 4 9 トレンチ出土遺物
図版 21	- 1 1 トレンチ出土遺物		- 1 15 トレンチ出土遺物 (1)
	- 2 2 トレンチ出土遺物 (1)		- 2 15 トレンチ出土遺物 (2)
	- 3 2 トレンチ出土遺物 (2)		- 3 15 トレンチ出土遺物 (3)
	- 4 2 トレンチ出土遺物 (3)		- 4 17 トレンチ出土遺物 (1)
	- 5 2 トレンチ出土遺物 (4)	図版 29	- 5 17 トレンチ出土遺物 (2)
	- 6 2 トレンチ出土遺物 (5)		- 1 17 トレンチ出土遺物 (3)
	- 7 2 トレンチ出土遺物 (6)		- 2 17 トレンチ出土遺物 (4)
	- 8 2 トレンチ出土遺物 (7)		- 3 17 トレンチ出土遺物 (5)
図版 22	- 1 2 トレンチ出土遺物 (8)		- 4 17 トレンチ出土遺物 (6)
	- 2 2 トレンチ出土遺物 (9)		- 5 17 トレンチ出土遺物 (7)
図版 23	- 1 3 トレンチ出土遺物		- 6 17 トレンチ出土遺物 (8)
	- 2 5 トレンチ出土遺物 (1)		- 7 17 トレンチ出土遺物 (9)
	- 3 5 トレンチ出土遺物 (2)		- 8 17 トレンチ出土遺物 (10)
	- 4 5 トレンチ出土遺物 (3)	図版 30	- 1 17 トレンチ出土遺物 (11)
	- 5 5 トレンチ出土遺物 (4)		- 2 17 トレンチ出土遺物 (12)
	- 6 5 トレンチ出土遺物 (5)	図版 31	- 1 17 トレンチ出土遺物 (13)
	- 7 5 トレンチ出土遺物 (6)		- 2 17 トレンチ出土遺物 (14)
図版 24	- 1 5 トレンチ出土遺物 (7)		- 3 17 トレンチ出土遺物 (15)
	- 2 5 トレンチ出土遺物 (8)	図版 32	- 1 17 トレンチ出土遺物 (16)
	- 3 5 トレンチ出土遺物 (9)		- 2 17 トレンチ出土遺物 (17)
	- 4 5 トレンチ出土遺物 (10)		- 3 17 トレンチ出土遺物 (18)
	- 5 5 トレンチ出土遺物 (11)		- 4 後円部斜面採集遺物
			- 5 古墳時代以外の遺物

挿図目次

第 1 図	遺跡位置図 [1/200000] ……………2	第 30 図	5 トレンチ出土遺物 (3) [1/4] ……………43
第 2 図	遺跡位置図 [1/50000] ……………4	第 31 図	5 トレンチ出土遺物 (4) [1/3] ……………44
第 3 図	長柄松山古墳群周辺地形図 [1/5000] ……………5	第 32 図	6 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………45
第 4 図	周辺の遺跡 [1/25000] ……………6	第 33 図	6 トレンチ遺物出土状況 [1/100] ……………46
第 5 図	第 1 号墳墳丘測量図 [1/500] ……………13	第 34 図	6 トレンチ出土遺物 [1/4、1/3] ……………47
第 6 図	第 1 号墳調査区配置図 [1/500] ……………14	第 35 図	7 トレンチ平面図・断面図 ・遺物出土状況 [1/100] ……………48
第 7 図	基本土層模式図……………18	第 36 図	7 トレンチ出土遺物 [1/4、1/3] ……………49
第 8 図	第 1 号墳表採遺物 [1/4] ……………18	第 37 図	8 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………50
第 9 図	1 トレンチ・16 トレンチ平面図・断面図 (1) [1/120] ……20	第 38 図	8 トレンチ遺物出土状況 [1/100] ……………51
第 10 図	1 トレンチ・16 トレンチ平面図・断面図 (2) [1/120] ……21	第 39 図	8 トレンチ出土遺物 [1/4、1/3] ……………52
第 11 図	1 トレンチ・16 トレンチ遺物出土状況 [1/120] ……………22	第 40 図	9 トレンチ平面図・断面図 (1) [1/100] ……………54
第 12 図	1 トレンチ墳頂部埴輪列検出状況 [1/30] ・1 トレンチ出土遺物 [1/3] ……………23	第 41 図	9 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………55
第 13 図	2 トレンチ平面図・断面図 (1) [1/100] ……………24	第 42 図	9 トレンチ遺物出土状況 [1/100] ……………56
第 14 図	2 トレンチ平面図・断面図 (2) [1/100] ……………25	第 43 図	9 トレンチ出土遺物 [1/4、1/3] ……………57
第 15 図	2 トレンチ遺物出土状況 (1) [1/100] ……………26	第 44 図	10 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………58
第 16 図	2 トレンチ遺物出土状況 (2) [1/30] ……………27	第 45 図	10 トレンチ出土遺物 [1/3] ……………59
第 17 図	2 トレンチ出土遺物 (1) [1/4] ……………28	第 46 図	11 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………60
第 18 図	2 トレンチ出土遺物 (2) [1/4、1/3] ……………29	第 47 図	12 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ・出土遺物 [2/3] ……………61
第 19 図	2 トレンチ出土遺物 (3) [1/3] ……………30	第 48 図	13 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………63
第 20 図	3 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………32	第 49 図	14 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………65
第 21 図	3 トレンチ遺物出土状況 [1/100、1/30] ・3 トレンチ出土遺物 [1/3] ……………33	第 50 図	15 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………67
第 22 図	4 トレンチ平面図・断面図 [1/100] ……………35	第 51 図	15 トレンチ遺物出土状況 [1/100] ……………68
第 23 図	4 トレンチ遺物出土状況 [1/100] ・4 トレンチ出土遺物 [1/3] ……………36	第 52 図	15 トレンチ出土遺物 [1/4、1/3] ……………69
第 24 図	5 トレンチ平面図・断面図 ……………37	第 53 図	プロファイル記録とタイムスライス結果の 総合解釈図……………70
第 25 図	5 トレンチ遺物出土状況 (1) [1/100] ……………38	第 54 図	17 トレンチ平面図 (陥没坑確認段階) [1/100] ……………71
第 26 図	5 トレンチ遺物出土状況 (2) [1/30] ……………39	第 55 図	17 トレンチ平面図 (盛土断ち割り段階) ・断面図 [1/100] ……………72
第 27 図	5 トレンチ遺物出土状況 (3) [1/30] ……………40	第 56 図	17 トレンチ断面図 [1/00] ……………73
第 28 図	5 トレンチ出土遺物 (1) [1/4] ……………41	第 57 図	17 トレンチ遺物出土状況 (1) [1/100] ……………74
第 29 図	5 トレンチ出土遺物 (2) [1/4] ……………42		

第58図	17トレンチ遺物出土状況(2)〔1/60〕	77
第59図	17トレンチ出土遺物(1)〔1/4〕	78
第60図	17トレンチ出土遺物(2)〔1/4、1/3〕	79
第61図	17トレンチ出土遺物(3)〔1/3、2/3〕	80
第62図	18トレンチ平面図・断面図、 遺物出土状況〔1/100〕	82
第63図	胎土重鉍物組成	90
第64図	暦年較正結果	97
第65図	2トレンチの花粉化石分布図	103
第66図	4トレンチの主要花粉化石分布図	103
第67図	6トレンチの花粉化石分布図	103
第68図	8トレンチの花粉化石分布図	103
第69図	9トレンチ・10トレンチの花粉化石分布図	104
第70図	12トレンチ・13トレンチの花粉化石分布図	104
第71図	14トレンチ・17トレンチの花粉化石分布図	104
第72図	14トレンチ深堀・15・16・18トレンチの 花粉化石分布図	105
第73図	花粉分析試料採取位置図	107
第74図	テフラ分析試料採取位置図(1)	117

第75図	テフラ分析試料採取位置図(2)	118
第76図	2次調査7トレンチ	119
第77図	第1号墳墳丘復元図〔1/500〕	120
第78図	第1号墳墳丘エレベーション図〔1/500〕	121
第79図	第1号墳後円部埴輪列〔1/120〕	123
第80図	相模湾岸の主要前期前方後円墳	124
第81図	第1号墳出土の円筒埴輪口縁部	126
第82図	突帯の分類	126
第83図	第1号墳出土の円筒埴輪の透孔	127
第84図	円筒埴輪底部の分類	127
第85図	円筒埴輪復元模式図	128
第86図	壺形埴輪底部分類図	129
第87図	第1号墳の壺形埴輪と類例	130
第88図	高環の分類	131
第89図	異形器台と類例	131
第90図	第1号墳出土壺類	131
第91図	池子遺跡群No.4地点9号住居跡出土土器	131
第92図	長柄桜山古墳群と周辺の遺跡	133

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧表(1)	7
第2表	周辺の遺跡一覧表(2)	8
第3表	周辺の遺跡一覧表(3)	9
第4表	1トレンチ出土遺物観察表	83
第5表	2トレンチ出土遺物観察表	83
第6表	3トレンチ出土遺物観察表	84
第7表	5トレンチ出土遺物観察表	84
第8表	6トレンチ出土遺物観察表	85
第9表	7トレンチ出土遺物観察表	85
第10表	8トレンチ出土遺物観察表	85
第11表	9トレンチ出土遺物観察表	86
第12表	15トレンチ出土遺物観察表	86
第13表	17トレンチ出土遺物観察表	86
第14表	古墳時代以外出土遺物(土器・陶磁器)観察表	88
第15表	胎土重鉍物分析結果	90
第16表	胎土薄片観察結果	91
第17表	測定試料及び処理	95
第18表	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	96
第19表	試料	98
第20表	産出花粉化石一覧表	100
第21表	1トレンチ	114

第22表	2トレンチ	114
第23表	3トレンチ	114
第24表	4トレンチ	114
第25表	5トレンチ	115
第26表	6トレンチ	115
第27表	7トレンチ	115
第28表	8トレンチ	115
第29表	9トレンチ	115
第30表	10トレンチ	115
第31表	12トレンチ	115
第32表	13トレンチ	116
第33表	14トレンチ上部	116
第34表	14トレンチ下部	116
第35表	15トレンチ	116
第36表	16トレンチ	116
第37表	17トレンチ	116
第38表	18トレンチ	116
第39表	第1号墳各トレンチ計測値	122
第40表	長柄桜山古墳群と主要大形前方後円墳墳丘属性比較	125
第41表	長柄桜山第1号墳墳丘基礎データ	136

第1章 調査概要

第1節 調査にいたる経緯

長柄桜山古墳群は、平成11年3月、葉山桜山団地西側の山頂（現在の第1号墳）で、葉山町在住の考古学愛好家東家洋之助氏が埴輪を発見したことにより、その存在が世に知られることになった古墳である。東家氏によれば、平成7年頃から散策の折に現在の第1号墳を前方後円墳ではないかと考えていたとのことであったが、確証がなかった。当該古墳の後円部墳頂部で携帯電話の無線基地局建設の計画に伴い、小規模な森林の伐採及び整地が行われたときに、古墳であることを示す埴輪を発見し、いち早く逗子市教育委員会に連絡をされたことから、貴重な文化財の破壊を免れることとなった。連絡を受けた逗子市教育委員会生涯学習課は、現地を確認後、葉山町教育委員会及び神奈川県教育委員会に連絡を行った。その後現況の略測を行った結果、現存する古墳としては県内最大級の約80m級の古墳であることを確認した。そこで、神奈川県・逗子市・葉山町の三教育委員会は事業者と協議を重ね、事業者側の理解と協力を得て工事は中止されることとなった。

一方、当該古墳の発見から程なく、そこから約500m西に離れた丘陵ピークの地点にも、同様に前方後円墳の可能性が高い地形が存在することを、県内の考古学研究者田村良照氏から連絡があり、踏査も行ったが、埴輪など確証が得られなかったため、古墳と即断するには至らなかった。ただ、この段階で先に発見された古墳を（仮）1号墳、後に報告された古墳形状の地形を（仮）2号墳とし、両者を合わせて「（仮称）長柄・桜山古墳群」として、第1号墳は平成11年3月末、第2号墳は8月に県の遺跡台帳に登録された。

この（仮）2号墳については、県・逗子市・葉山町三教委の協議によって、古墳であるか否かを早急に判断する必要が指摘されたことを受け、神奈川県教育委員会が同年7月に試掘調査を実施した（第1次調査）。調査は、現況地形の観察から古墳のくびれ部と前方部の側面と推定される部分に2本の試掘トレンチを設けて人力で掘り下げたところ、両方のトレンチから葺石や埴輪片が確認され、古墳であることが明らかになった。

その後、同年8月には神奈川県教育委員会が第1号墳の墳丘測量調査を、翌年2月には神奈川県教育委員会の委託を受けたかながわ考古学財団が第2号墳の墳丘測量調査を実施している。さらに翌年の平成12年5月には、両古墳の墳丘規模と範囲を正確に把握するために、神奈川県教育委員会の委託を受けたかながわ考古学財団により範囲確認調査が実施されている（第2次調査）。これらの調査の結果、両古墳が墳長90m前後の古墳時代前期の前方後円墳であり、現存する古墳としては県内最大級の規模を有すること、同様にいずれも壺形埴輪と円筒埴輪を有することなどが明らかとなった。

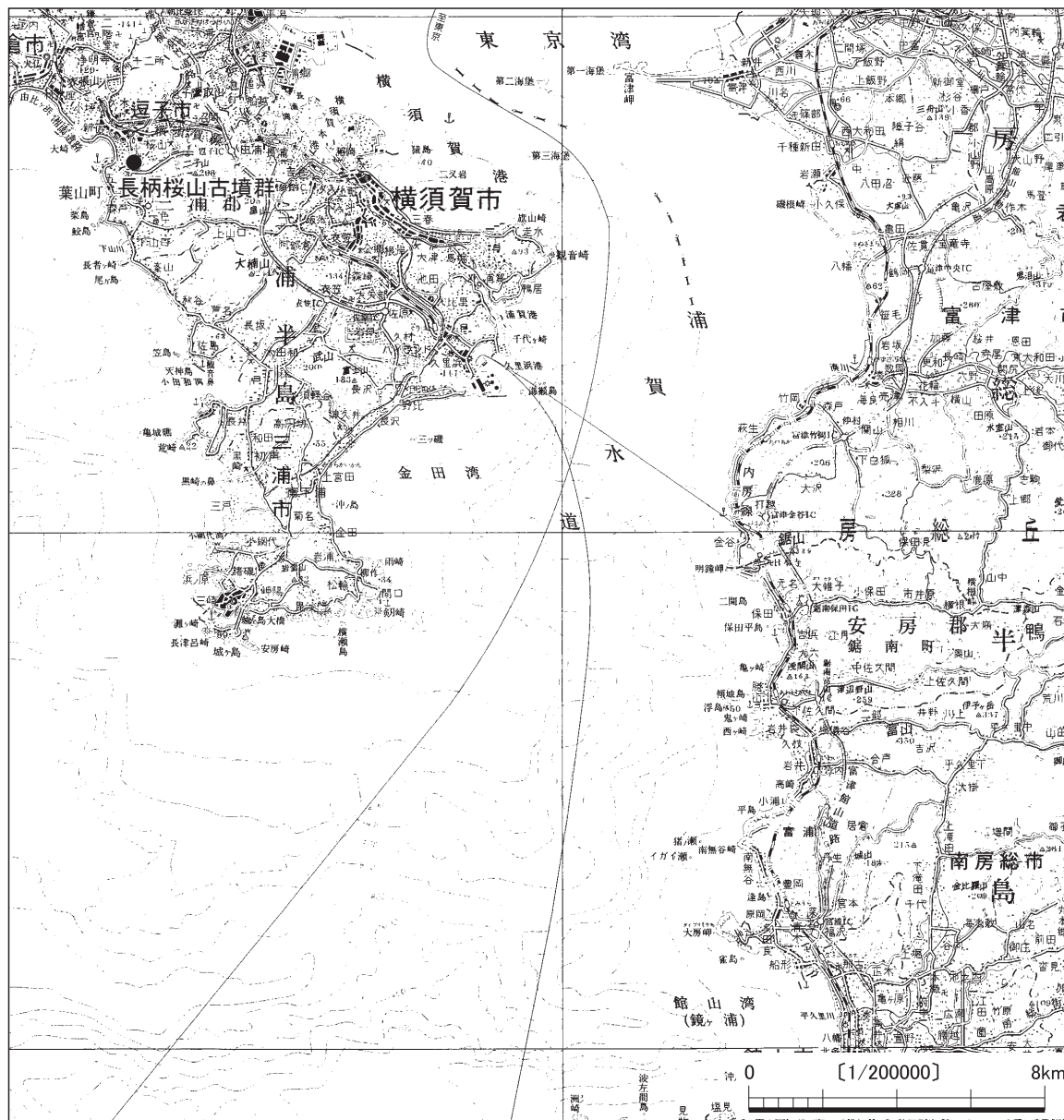
これらの調査結果を受け、逗子市と葉山町教育委員会では、シンポジウムや講演会を開催したほか、発見当初に神奈川県教育委員会の要請で始まり、現在は逗子市と葉山町が行っている古墳パトロール、また、東家氏らを中心とする「長柄・桜山古墳をまもる会」の発足など、市民・町民の活動も展開された。

平成14年12月19日には、「長柄桜山古墳群」として国の史跡指定を受け、文化財保護法により恒久的に保存されることが決まった。

逗子市と葉山町は、史跡の恒久的な保存・整備を図るため、平成15年度には『国史跡指定長柄桜山古墳群整備基本構想』を策定し、今後の整備の基本的方向性を示した。平成16年度には3名の考古学研究者に

よる国指定史跡長柄桜山古墳群調査指導委員会（以下、調査指導委員会という。）を設置し、今後の整備に必要な地下遺構の情報収集を目的とした発掘調査について検討を開始し、平成18年3月に全体的な発掘調査計画を策定している。この間、平成16、17年度には指定地内民有地の公有地化が完了したため、平成18年度から発掘調査に着手することとなった。発掘作業は当初6年かけて行う計画であったが、できる限り早期の整備実施、公開活用に向けて、スケジュールの再検討重ねた結果、平成18～21年度に4年に短縮した。

なお、平成20年度からは、国指定史跡長柄桜山古墳群整備基本計画策定委員会（以下、整備基本計画策定委員会という。）を立ち上げ、逗子市民、葉山町民の意向を汲み上げつつ、これまでの調査成果等を反映させながら、史跡の保存と活用に向けた基本計画を平成23年3月に策定している。



第1図 遺跡位置図 [1/200000]

第2章 遺跡概観

第1節 立地と環境

長柄桜山古墳群が所在する神奈川県逗子市と三浦郡葉山町は、相模湾と東京湾を画する三浦半島北部の付け根付近に所在し、相模湾側に面している。逗子・葉山地域の地形は大きく山地・丘陵、台地・段丘、沖積低地に三分される。古墳群周辺は、地形区分上は葉山隆起帯に区分されており、丘陵地が広がる。古墳群は逗子市と葉山町の両市町の行政境となっている丘陵尾根筋の上であり、この丘陵のピークに所在する2基の古墳は、北側が逗子市域、南側が葉山町域となっている。なお現在この丘陵は、昭和40年代に行われた大規模な宅地開発により、古墳群東側の広い範囲で尾根が削られ谷が埋め立てられており、本来の景観とは大きく様変わりしている。古墳群、とくに第1号墳は、この宅地開発に伴う尾根の削り取りをかるうじて免れており、発見の際の工事も含めると二度の幸運に恵まれたといえよう。明治迅速図によれば、第1号墳から約250m、及び約350m北東の位置に丘陵のピークが存在しており、これらが古墳であった可能性も指摘されている（東家2005）。

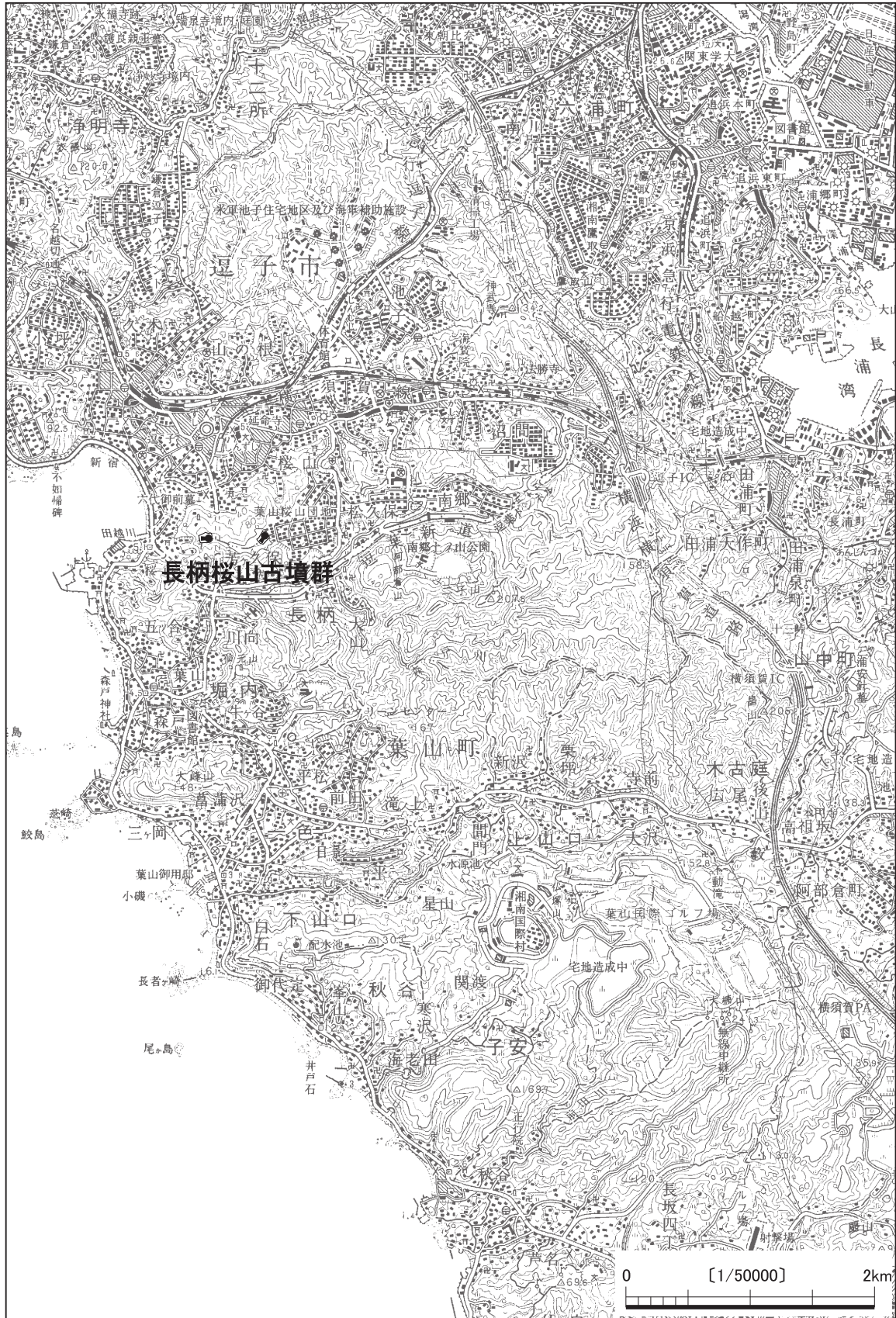
さて、逗子・葉山地域の地質は、主に新第三紀中新世中期（1650万～1200万年前）に堆積した「葉山層群」と新第三紀中新世中期～後期（1200万～280万年前）に堆積した「三浦層群」、および新第三紀鮮新世後期～第四紀更新世中期（280万～50万年前）に堆積した「上総層群」からなり、これらを浸食した沖積低地に「沖積層」が分布する。古墳群周辺は、このうちの三浦層群が分布している。三浦層群は、主として逗子層（約820～440万年前）と池子層（約280～440万年前）とからなり、逗子層は泥岩と砂岩薄層との互層を主体としながら凝灰岩の薄層を挟み、池子層は凝灰岩質泥岩火砕岩互層を主体するが、古墳群周辺は逗子層の泥岩が分布している。地層の方向は東西方向であり、北方向に傾斜する傾向がある。

現在の逗子湾海岸線が、古墳が造られた当時どのあたりにあったのか、といったことがしばしば話題に上る。現在よりも気候が温暖であった縄文海進最高期には、現在の海面よりも6～7m高かったとされ、陸地の奥深くまで海水が浸入しており、いわゆる「古逗子湾」が形成されていた（逗子市1987）。古逗子湾は、現在の東逗子駅東方、京急神武寺駅北方、久木中学校北方まで海水が浸入していたことがボーリング調査によって確認されている。その後寒冷化に伴う海退が進み、長柄桜山古墳群が築造されたころには海岸線は現在とほぼ同じ位置にあったと推定されている。

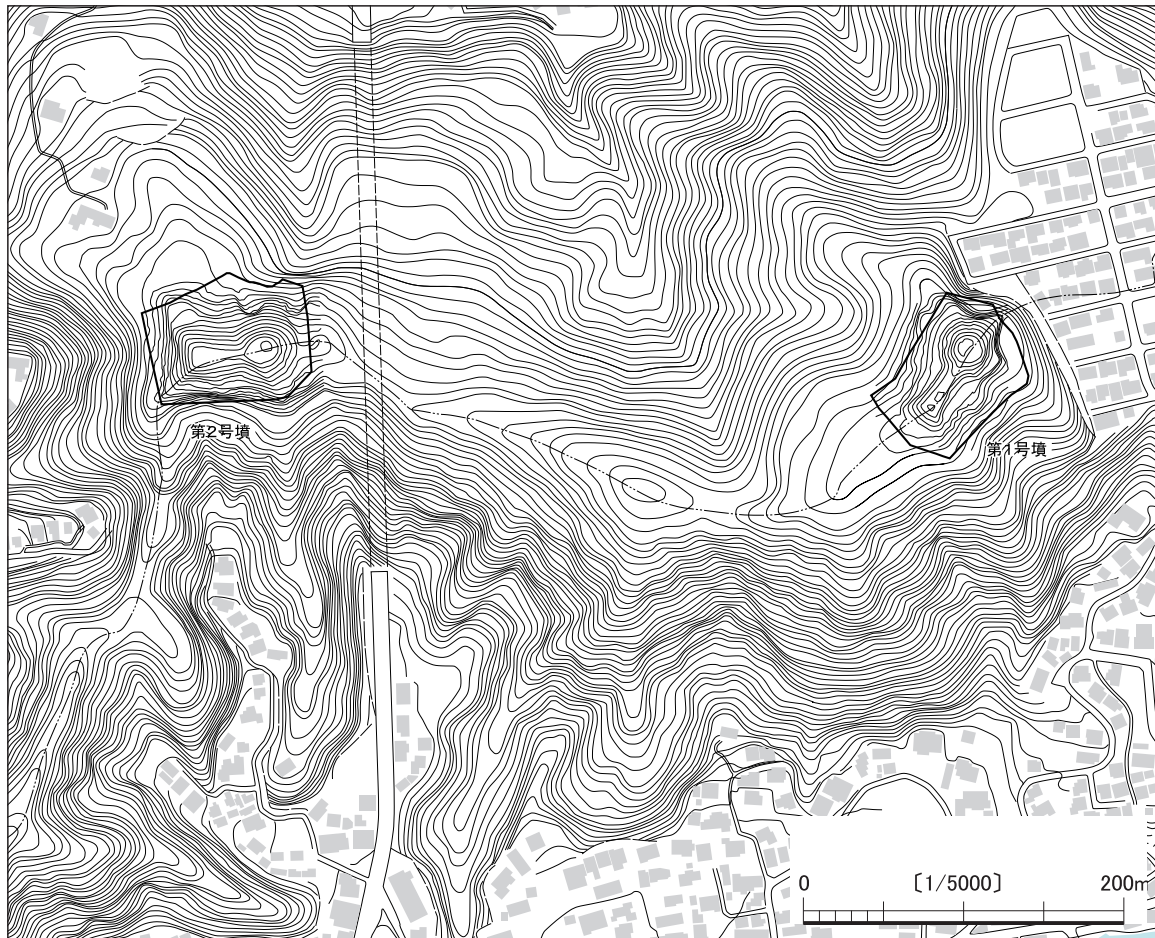
次に古墳群周辺の植生環境についてであるが、古墳築造以前は照葉樹林であったと思われるが、築造の際にこの照葉樹林が切り開かれ、その後イネ科などが進入して草地が形成された一方、一部にニヨウマツ類やコナラ亜属の二次林が成立するようになったようである。中世末～近世初頭に至ると、墳丘脇の平坦地においてソバ属やゴマ属などの花粉が発見されていることから、古墳周辺で畑作が行われていたようである。この点については第6章第3節を参照されたい。

古墳群が所在する現在の植生環境についてであるが、この丘陵一帯はヤブツバキクラス域に属しており、植物相はこれを反映して、スダジイ、タブノキ、イヌビワ、ヒサカキ等、主に暖温帯に分布の中心をおく種で構成されている。コナラやヤマザクラの落葉広葉樹林で確認されたムクノキ、ハゼノキ等の構成種も暖温帯二次林を代表するものである。

第1号墳、第2号墳とその周辺はともにすべて樹林地にあり、常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、スギ・ヒ



第2図 遺跡位置図 [1/50000]



第3図 長柄桜山古墳群周辺地形図〔1/5000〕

ノキ植林、クスノキ植林、竹林が確認されている。林床の種は、アズマネザサ、リョウメンシダ、ベニシダ、イノデ、ミゾシダ、ドクダミ、ヤブラン、ナガバジャノヒゲ、ナルコユリ、ヤツデ、オオバウマノスズクサ等多くの種が見られる。樹木の密度が低い場所では、林床部に光が入り、カニクサ、ワラビ、オオバコ、スイカズラ、ツククサ等、路傍や林縁部でよくみられる種も確認された。ほかにオオシマザクラやハコネウツギ、第2号墳東側の、桜山隧道上付近ではクスノキの植林も確認されている。

上述のように墳丘とその周辺は樹林に覆われており、眼下の視界はもとより、外から墳丘を視認することもできないが、築造当初の樹林が切り開かれた状態においては第1号墳からは現在の逗子市街地及び逗子湾を、また、東北東には東京湾を眺望することができた。また、第2号墳の前方部墳頂からは、古墳発見前に建てられた眺望台の存在からも明らかのように、江ノ島、富士山を背景に相模湾を眺望することができる絶好のロケーションにある。

第2節 歴史的環境

長柄桜山古墳群が所在する逗子市・葉山町における周知の遺跡は、逗子市で143ヶ所、葉山町で43ヶ所を数える。

旧石器時代の遺跡は確認されていないが、池子遺跡群で後世の埋没谷からナイフ形石器が1点出土している。



第4図 周辺の遺跡 [1/25000]

縄文時代に入ると、丘陵上を中心に遺跡の分布が認められる。逗子市域では披露山山頂遺跡（逗10）や披露山遺跡（逗53）などの遺跡群で早期から前期の土器が採集されているほか、沼間ポンプ場裏台地遺跡（逗子37）では炉穴・集石・落とし穴などが、また第2号墳近傍の逗子市No.22遺跡では中期の遺跡が確認されている。葉山町域では馬の背山遺跡や正吟遺跡等で早期の土器が採集されている。一方、低湿地においても遺跡の存在が確認されている。逗子市池子遺跡群（逗140）では丘陵裾部を中心に縄文時代前期から後期にかけての土器片・石器が出土している。また、池子No.1-A地点、No.1-A南地点では検出された弥生時代中期後半の旧河道底より縄文時代晩期から弥生時代前期の条痕文土器片が出土している。さらに桜山うつき野遺跡（逗90）でも縄文時代晩期から弥生時代中期の遺物包含層が検出されるなどしている。

弥生時代には逗子市域では丘陵中腹に中期後半（宮ノ台期）の持田遺跡（逗18）、後期の地蔵山遺跡（逗117、逗118）が展開している。葉山町域でも、台地上で後期の間門遺跡（葉31）が確認されている。低地部では池子遺跡群の調査が特筆される。同遺跡では竪穴住居跡や方形周溝墓などの遺構に加え、旧河道が発見され、宮ノ台期を中心とする多量の木製品が発見されている。これらの遺物は、神奈川県的重要文化財に指定されている。隣接する池子棧敷戸遺跡でも宮ノ台期の方形周溝墓（逗100）群が確認されている。

古墳時代に入っても、弥生時代以来の丘陵部において古墳時代前期の遺跡が展開している。逗子市域では

第1表 周辺の遺跡一覧表（1）

No	遺跡名称	所在地（おおよその位置）	種別	遺跡の属する時代（代表的なもの）
逗1	小坪横穴群	小坪2丁目付近	横穴墓	古墳（末）
逗2	新宿横穴群	新宿5丁目	横穴墓	古墳（末）
逗3	山野根横穴群Ⅰ群	山の根1丁目	横穴墓	古墳（末）
逗4	山野根横穴群Ⅱ群	山の根2丁目	横穴墓	古墳（末）
逗5	山野根横穴群Ⅲ群	山の根2丁目	横穴墓	古墳（末）
逗6	山野根横穴群Ⅳ群	山の根2丁目	横穴墓	古墳（末）
逗7	山野根横穴群Ⅴ群	山の根3丁目	横穴墓	古墳（末）
逗8	山野根横穴群Ⅵ群	山の根3丁目	横穴墓	古墳（末）
逗9	小坪大塚	小坪4丁目	経塚	中世（鎌倉）
逗10	披露山山頂遺跡	新宿5丁目	遺物散布地	縄文（早期）
逗11	沼間堀内横穴（先祖やぐら）	沼間2丁目	横穴墓、やぐら	古墳・中世
逗12	（海前寺やぐら）	小坪5丁目	やぐら	中世
逗13	まんだら堂お猿畑やぐら群	久木9丁目・4丁目・小坪7丁目	やぐら	中世
逗14	神武寺こんびらやぐら群	沼間2丁目1	やぐら	中世
逗15	神武寺みろくやぐら群	沼間2丁目	やぐら	中世
逗16	住吉城址	小坪5丁目	城址	中世
逗17	飯島やぐら群	小坪5丁目	やぐら	中世
逗18	持田遺跡	桜山5丁目	集落跡	弥生・古墳・奈良（土師（古・新））
逗19	法性寺やぐら群	久木9丁目	やぐら	中世
逗20	諏訪社西方遺跡	小坪4丁目	やぐら、遺物散布地	古墳（土師（古））
逗21	桜山やぐら群	桜山8丁目	やぐら	弥生（後期）・中世
逗22	（桜山貯水池遺跡）	桜山8丁目	遺物散布地	縄文（中期）・弥生（後期）
逗23	亀ヶ岡八幡宮周辺遺跡	逗子5丁目	遺物散布地	古墳
逗24	（山の根遺跡）	山の根2丁目	遺物散布地	古墳
逗25	才戸池西側遺跡	桜山6丁目	遺物散布地	縄文
逗26	才戸谷遺跡	桜山5丁目	遺物散布地	古墳（前期）
逗27	内藤屋敷跡	桜山5丁目	遺物散布地	弥生（後期）・古墳（前期）・（土師（古））
逗28	新宿海岸横穴（群）	新宿5丁目	横穴墓	古墳（末）
逗29	地蔵山矢部邸内塚	桜山5丁目	塚	中世
逗30	番合谷遺跡	桜山5丁目	遺物散布地	古墳（前期）
逗31	台山稲荷下遺跡	沼間1丁目	遺物散布地	縄文・弥生・奈良・平安
逗32		沼間1丁目	遺物散布地	古墳
逗33	沼間台遺跡	沼間1丁目	遺物散布地（集落跡）	弥生（中期・後期）・古墳・奈良（土師（古・新））
逗34	沼間南台遺跡	沼間1丁目	遺物散布地	弥生
逗35	沼間台山遺跡	沼間1丁目	遺物散布地	縄文
逗36	五霊神社南台地遺跡	沼間3丁目	遺物散布地	古墳（前期）・奈良・平安・中世（鎌倉末期から室町）
逗37	沼間ポンプ場裏台地遺跡	沼間3丁目	遺物散布地	縄文（早期）・古墳（前期）・平安（中・後期）
逗38	小池入・木之間入遺跡	沼間5丁目	遺物散布地	縄文（早期）
逗39	親王やぐら群	沼間2丁目	やぐら	中世（鎌倉）
逗40	池子やぐら群	池子4丁目	やぐら	中世（室町）
逗41	（池子トンネル上遺跡）	池子4丁目	遺物散布地	縄文
逗42	（住吉城址横穴）	小坪5丁目	横穴墓	

第2表 周辺の遺跡一覧表(2)

逗43	アザリエ団地内遺跡	池子2丁目	遺物散布地	弥生(後期)
逗44	池子2丁目遺跡	池子2丁目	遺物散布地	弥生(後期)・古墳(前期)
逗45	山野根熊野神社横穴群	山の根2丁目	横穴墓	古墳(未)
逗46	(海宝院裏遺跡)	沼間2丁目	遺物散布地	古墳(未)
逗47	山野根仲の谷横穴	山の根2丁目	横穴墓	古墳(未)
逗48	久木横穴群	久木1丁目	横穴墓	古墳(未)
逗49	堀ノ内城郭遺構	沼間2丁目	城址	中世
逗50	岩殿寺やぐら・横穴	久木5丁目	横穴墓	古墳(後期・未)・中世
逗51	披露山北側台地遺跡	新宿4丁目	遺物包含地	縄文(中期・後期)・奈良・平安・中世・近世
逗52	名越遺跡	小坪7丁目・久木9丁目	城址	古墳(後期)・中世(鎌倉から室町)・近世
逗53	披露山遺跡	小坪3丁目・新宿4丁目	遺物散布地	縄文・弥生・古墳
逗54	伊勢山遺跡(披露山遺跡D地点)	小坪4丁目(天照大神宮裏)	遺物散布地	鎌倉
逗55		久木1丁目	遺物散布地	縄文
逗56		久木2丁目	やぐら	中世(鎌倉)
逗57	大山遺跡	桜山字大山	遺物散布地	縄文
逗58	沼間やぐら群	沼間2丁目	やぐら・地下式墳墓	古墳(前期)・中世
逗59	(桜山トンネル上遺跡)	桜山7丁目	遺物散布地	古墳
逗60	(岩ヶ谷遺跡)	桜山9丁目	遺物散布地、やぐら、墓	縄文・弥生・古墳・中世・近世
逗61	堂前遺跡	桜山7丁目・逗子4丁目	遺物散布地	古墳・奈良・平安(土(新))
逗62	久木松岡氏裏やぐら群	久木5丁目	やぐら	中世(鎌倉後期・室町)
逗63	(仲川やぐら群)	逗子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内	やぐら	中世以降
逗64	妙光寺やぐら群	久木6丁目	やぐら	中世(南北朝から室町)
逗65	逗子経塚	逗子4丁目	経塚	中世
逗66	牛王松横穴群	桜山4丁目	横穴墓	古墳(未)・中世(室町)
逗67	富士塚	新宿2丁目	墳墓	中世(室町)
逗68	正覚寺やぐら群	小坪5丁目	やぐら	中世(鎌倉・室町)
逗69	桜山小古瀬遺跡	桜山6丁目	横穴墓	古墳(未)
逗70	(池子馬渡り遺跡)	池子2丁目	横穴墓、地下式墳墓	古墳
逗71	岩殿寺城郭遺構	久木5丁目	城跡	平安・中世
逗72	菅ヶ谷台地遺跡	沼間3丁目	集落跡	縄文(早期・前期)弥生・古墳(後期)・奈良(後期)・平安(後期)・中世
逗73	神武寺城郭遺構	沼間2丁目	城跡	中世
逗74	小坪宮の前やぐら群	小坪6丁目	やぐら	中世
逗75	池子5丁目やぐら群	池子4丁目	やぐら	中世
逗76	八坂やぐら群	逗子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内	やぐら、横穴墓	中世以降
逗77	石ノ下やぐら群	逗子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内	やぐら、横穴墓	中世以降
逗78	敷沢やぐら群	逗子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内	やぐら	中世以降
逗79	笹ヶ谷やぐら群	逗子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内	やぐら	中世
逗80		久木5丁目	遺物散布地	
逗81		久木字東諏訪谷	遺物散布地	
逗82	高崎邸やぐら	小坪4丁目	やぐら	中世
逗83		山3丁目	やぐら	中世
逗84	烏川遺跡	桜山1丁目	遺物散布地	奈良・平安
逗85		桜山2丁目	遺物散布地	
逗86		桜山3丁目	遺物散布地	
逗87		桜山4丁目	遺物散布地	
逗88		桜山6丁目	遺物散布地	
逗89		桜山6丁目	遺物散布地	
逗90	桜山うつき野遺跡	桜山8丁目	遺物散布地	縄文・弥生・古墳(前期)・奈良・平安・中世
逗91	岩ヶ谷遺跡	桜山9丁目	遺物散布地、墓	縄文・弥生・古墳・中世・近世
逗92	逗子の大墓	逗子5丁目	遺物散布地	古墳(後期)・中世・近世
逗93		逗子7丁目	遺物散布地	
逗94	前田遺跡	沼間2丁目	遺物散布地	奈良・平安・中世
逗95		沼間3丁目	遺物散布地	
逗96		沼間4丁目	遺物散布地	
逗97		池子1丁目	遺物散布地	
逗98		池子2丁目	遺物散布地	
逗99		池子3丁目	遺物散布地	
逗100	池子枝敷戸遺跡	池子字さじき戸	遺物散布地、集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世
逗101		池子字うるし作	遺物散布地	
逗102		久木2丁目	遺物散布地	
逗103		久木3丁目	遺物散布地	
逗104		久木4丁目	遺物散布地	
逗105		久木4丁目	やぐら	中世
逗106	海前寺西やぐら群	小坪5丁目	やぐら	中世(鎌倉・室町)
逗107	大崎中世墓地遺跡	小坪4丁目	墓	中世
逗108	柳原遺跡	池子1丁目		中世(近世以前)
逗109	久木6丁目横穴群	久木5丁目	横穴墓	古墳(後期・未)・中世
逗110	延命寺遺跡	逗子3丁目・4丁目	寺院跡	奈良・平安・中世・近世
逗111		久木4丁目	やぐら	中世
逗112		久木4丁目	やぐら	中世
逗113	松本谷戸遺跡	山の根3丁目	遺物包含地	古墳・奈良・平安・中世

第3表 周辺の遺跡一覧表(3)

遅114	蟹田遺跡	遅子4丁目	集落跡、遺物散布地	古墳・奈良・平安
遅115	堂地谷やぐら群	久木5丁目	やぐら	中世
遅116	げんじが谷横穴群及びやぐら群	小坪地内	横穴墓、やぐら	
遅117	地蔵山遺跡(地蔵山遺跡群)	坂山5丁目	遺物散布地、屋敷跡	弥生・古墳・中世他
遅118	(地蔵山遺跡群)	坂山5丁目	集落跡	弥生(後期)・古墳(前期)・中世
遅119	地蔵山熊野神社遺跡(地蔵山遺跡群)	坂山5丁目	遺物散布地	弥生(後期)・中世(後期)・近世
遅120	長柄・坂山第1号墳	坂山7丁目	古墳	古墳(前期)
遅121	長柄・坂山第2号墳	坂山8丁目	古墳	古墳(前期)
遅122	番合谷三枚畑遺跡	坂山5丁目		古墳(前期)・中世・近世
遅123	小坪西海はた遺跡	小坪5丁目	遺物散布地	中世
遅124	小坪南町遺跡	小坪4丁目	遺物散布地	
遅125	塚場遺跡	久木5丁目	屋敷跡	古墳(後期)・奈良・平安・中世・近世
遅126	田越谷遺跡	坂山8丁目	遺物散布地	中世
遅127	柳作遺跡	坂山7丁目	遺物散布地	奈良・平安・中世
遅128		坂山7丁目	遺物散布地	古墳(前期)
遅129	塚田遺跡	坂山1丁目	遺物散布地	奈良・平安
遅130	沼間新屋敷遺跡	沼間4丁目	遺物散布地	古墳
遅131	沼間八反目遺跡	沼間6丁目	遺物散布地	奈良・平安
遅132	田越神明社遺跡	坂山8丁目	遺物散布地	古墳(前期)・中世
遅133	山白山社遺跡	山3丁目	集落跡	古墳・奈良・平安・中世
遅134	井戸ヶ沢遺跡	坂山7丁目	遺物散布地	縄文(前期)・古墳(前期)
遅135		坂山4丁目	遺物散布地	古代
遅136		坂山5丁目	やぐら	中世
遅137	宮ノ下やぐら群	久木地内	やぐら	中世
遅138		久木7丁目	やぐら	中世
遅139		遅子5丁目	遺物散布地	中世
遅140	池子遺跡群	遅子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世以降
遅141		遅子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内	やぐら	中世
遅142		遅子市米海軍池子住宅地区及び海軍補助施設内	やぐら	中世
遅143		池子1丁目	その他の遺跡	奈良・平安・中世
葉1	馬の背山遺跡	木古庭901、990、1015	遺物散布地	縄文早期・前期
葉2	アブズル遺跡	堀内301	散布地・集落跡・古墳	古墳前期・中期、奈良
葉3	一色公園内遺跡	一色(恩賜公園内)	遺物散布地	弥生・古墳・奈良・平安
葉4	児童遊園地内遺跡	堀内510他	遺物散布地	弥生・古墳・奈良・平安
葉5	鍛冶城跡	堀内鍛冶	城跡	鎌倉～戦国末期
葉6	平遺跡	下山口625番	遺物散布地	鎌倉
葉7	御用邸内遺跡	一色打崩2038	散布地・古墳・集落跡	古墳・奈良・平安・近世
葉8		長柄564	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉9		長柄580他	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉10		長柄	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉11		長柄	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉12		長柄914	やぐら	中世
葉13	義景大明神やぐら	長柄大山殿ヶ谷954-3	やぐら	中世
葉14		長柄965	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉15	長徳寺やぐら	長柄1217	やぐら	中世
葉16		長柄1202他	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉17		長柄	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉18		長柄268	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉19		堀内658他	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉20		堀内739	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉21	長徳寺館址	堀内804他	館跡・墓地・散布地	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
葉22		堀内483	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉23		堀内	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉24	森戸神社裏遺跡	堀内1025	遺物散布地	縄文
葉25	光徳寺遺跡	堀内1349	遺物散布地	中世
葉26	山王塚	一色前田	塚	近世
葉27		一色1031他	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉28	長塚	一色白影	塚	近世
葉29		上山口1530他	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉30		上山口	遺物散布地	古墳・奈良・平安
葉31	間門遺跡	上山口字正吟2143-1他	散布地・集落跡・地下式横穴	縄文早期・中期・弥生後期・古墳前期・平安・中世・近世
葉32		上山口	塚	近世
葉33		上山口	塚	近世
葉34	正吟遺跡	上山口字正吟	散布地	縄文前期
葉35	畠山城址	木古庭	城跡	中世
葉36	長江館址	長江山殿ヶ谷	館跡	古墳・奈良・平安・中世
葉37	三ヶ岡遺跡	一色字三ヶ岡2208-1	集落跡	古墳・奈良・平安
葉38	長柄坂山古墳群 第1号墳	長柄字芳ヶ久保691-5、621-2	古墳	古墳
葉39	長柄坂山古墳群 第2号墳	長柄字下小路419-2、435-4	古墳	古墳
葉40	竹の谷やぐら	長柄312-2	やぐら	中世
葉41		堀内字葉山918-9、918-13他	墓地	近世
葉42	旗立山やぐら群	堀内	やぐら	中世

披露山遺跡の存在も知られるが、田越川中～上流域左岸の長柄桜山古墳群が所在する丘陵中腹に位置する段丘面上に遺跡の分布が顕著にみられる。逗子市No.118遺跡（逗118）、内藤屋敷跡（逗27）、持田遺跡、菅ヶ谷台地遺跡（逗72）、沼間ポンプ場裏台地遺跡が存在するほか、低地部においても池子遺跡群で竪穴住居などが確認されている。持田遺跡では一般集落から出土することがきわめて稀な石釧や勾玉、未成品を含む管玉等が発見されているほか、池子遺跡群No.2地点では内行花文鏡と目される鏡片・銅鏃・鉄鏃が出土しており、長柄桜山古墳群の築造母胎を考える上で最も有力なエリアとみることができる。また、沼間ポンプ場南台地遺跡・菅ヶ谷台地遺跡では竪穴住居跡群に加え、土器焼成遺構や粘土採掘坑も検出されている。これらの遺跡群からやや離れた第2号墳が所在する丘陵北側直下の桜山うつき野遺跡では、遺構は明確でないが長柄桜山古墳群に並行すると考えられる時期の土器群出土している。注目されるのは、長柄桜山古墳群で発見された壺形埴輪と近似する底部片が発見されたことであり、第2号墳の直下という立地から、古墳群との関係性が示唆される。葉山町域では、海浜部を中心に遺跡が展開している。葉山町No.2遺跡（葉2）では、古墳時代前期の竪穴住居跡群のほか、周溝状の遺構が確認されている。また、三ヶ岡遺跡（葉37）でも竪穴住居跡が確認されているほか、一色公園内遺跡（葉3）や御用邸内遺跡（葉7）でも当該期の土器が出土している。

古墳時代中期になっても持田遺跡や内藤屋敷遺跡で集落跡が発見されているし、池子遺跡群からも多量の土器が出土しており、継続的に生活は営まれていたと考えられるが、長柄桜山古墳群に継続する古墳は現在までに発見されていない。

古墳時代後期以降になると、逗子市域では80穴以上の横穴墓が確認され、その立地は田越川右岸の丘陵沿い、久木、山の根地区に集中するといった特徴が見られる。一方葉山町域では、現在のところ横穴は1穴も確認されていないが、明治26年に葉山御用邸建築の際に発見された丸石積みの石櫛を有すると推定される円墳が発見されている。この通称「一色古墳」からは、人骨とともに鉄剣、鉄鏃、骨鏃が出土している。

奈良・平安時代になると、逗子市域では前代から引き続き丘陵上の集落が展開しており、沼間ポンプ場裏台地遺跡、菅ヶ谷台地遺跡、沼間南台遺跡（逗34）などで住居跡が検出されている。一方この時期になると、沖積低地への展開がはっきりと認められるようになる。延命寺遺跡（逗110）では大型の堀立柱建物跡や総柱建物跡などが検出され、地方行政関連施設と目されている。他に蟹田遺跡や池子遺跡群でも住居跡が検出されている。葉山町域では海浜部の三ヶ丘遺跡のほか、丘陵部の間門遺跡でも住居跡が検出されている。

中世以降になると、鎌倉の南側周縁に位置する関係上、逗子市久木から池子、沼間の田越川右岸に至る丘陵裾部を中心に、鎌倉地方特有の横穴式葬送供養施設であるやぐら群が展開する。中でも国指定史跡名越切通にあるまんだら堂お猿島やぐら群（逗13）は、山陵部のやぐら群として規模も保存状態も傑出した遺構であり、逗子市が史跡整備を進めている。なお、田越川を挟んだ南側においてやぐらの分布は極めて希薄になり、形態的に明瞭なものとしては義景大明神やぐら（葉13）や長徳寺やぐら（葉15）などが葉山町長柄地区に見られるに過ぎない。集落址では、池子遺跡群（逗140）において、丘陵裾の微高地に2～3棟の堀立柱建物址、井戸址、土坑、溝状遺構などによって構成される小規模な居住施設が散在している状況が確認され、占地を変えながら中世から近世・近代へと断続的な土地利用の変遷が明らかになっている。また、沖積地の中心部に位置する延命寺遺跡（逗110）では、中世後期から近世にかけて堀立柱建物址を主とした遺構群が展開しているほか、逗子の大墓（逗92）では、近世後期から近代にかけての墓域が調査され、貴重な成果を挙げている。

第3章 調査の方法とその経過

第1節 調査の方法

まず、今回の調査の目的について述べる。当該史跡については発見後、史跡指定に先立って、保存すべき遺跡の範囲確認を目的とした調査が行われている。今回実施した発掘調査は、逗子市と葉山町が計画する史跡整備の一環として行ったものである。史跡整備のために必要な情報収集を目的とした発掘調査を実施するにあたっては、当該史跡が有する本質的価値の保存・活用と密接な関係を有し、法的な保存措置が採られた指定地における重大な現状変更等の行為に当たるものであり、発掘調査という作業が、史跡の重要な構成要素である遺跡の解体を伴うということに十分留意しなければならない（文化庁文化財部記念物課 2005）。

調査は次の目的を達成するために行った。

- (1) 墳丘の現況を把握し、後世の改変が墳丘の保存にどう影響を及ぼしているのかを追求する。
- (2) 築造当初の古墳の規模、形態、構造の詳細を明らかにし、整備にあたって必要となる情報を収集する。
- (3) 埋葬施設の位置、種類、数量、損傷の有無を明らかにし、整備にあたって必要となる情報を収集する。

ただし埋葬施設の確認にあたっては以下の点に留意した。古墳の埋葬主体部については、学術的な目的と同時に宝探的な目的の下に発掘されやすいという性質をもっているため、盗掘や完掘されているものが少なく、良好な状態で保存されているものの希少価値が相対的に高いとされる。したがって調査計画では、調査指導委員会、文化庁・神奈川県教育委員会の助言、指導をふまえ、未盗掘であるもの及び内部の保存状況が良好であることが想定される場合には、性急に発掘調査を進めることなく、次世代へと保存・伝達することとし、盗掘などを受けていた場合は損壊状況を確認することとした。

調査区の設定にあたっては、古墳推定主軸線を設定し、これを基準に各トレンチを設定した。各トレンチの位置は、史跡内に設置した4箇所の基準杭（No.1 : $X = -79031.898$, $Y = -22643.924$, No.2 : $X = -79087.497$, $Y = -2269.601$, No.3 : $X = -79077.941$, $Y = -22609.337$, No.4 : $X = -79109.912$, $Y = 22631.481$ ）に基づき世界測地系座標に変換している。

発掘調査区の設定は、史跡への影響を最小限に留めたため、幅1mのトレンチを基本としたが、くびれ部や前方部隅角、及び後円部墳頂部平坦面では、面的な調査を実施した調査区も存在する。また、立木や過去の調査区と重複する場合などは、随時形状を変更した。調査区の面積は、平成18年度が72.7㎡、平成19年度が121.8㎡、平成20年度が124.2㎡、平成21年度が48.74㎡で、総計378.44㎡を調査した。調査区の名称は、調査計画に基づき、逗子市、葉山町調査区を連番で呼称することとした。

調査は、基本的に表土層から移植ゴテによる掘り下げ作業を行い、遺物は表土層に含まれるものも含めて出土位置を記録し、原位置を保つものを除き、取り上げを行った。調査は原則として墳丘面までの確認に留めているが、盛土の状況把握、及び埋葬施設の位置、構造、基数を確認するため、整備基本計画策定委員会（考古専門委員）・県教委の指導を受け、一部断割り調査を実施している。掘り下げ完了後は、必要な写真・図面等の記録作業を行い、調査を完了した。なお、遺構に関する記録は、必要に応じて光波測距儀と遣り方等を併用して行った。出土遺物については基本的に全ての遺物出土位置を光波測距儀と遣り方を併用して記録を行った。

調査終了後は、すべて埋め戻しを行った。

第2節 調査の経過

(1) 発掘調査の経過

長柄桜山古墳群の発掘調査は、第1章で述べたとおり平成11年に神奈川県教育委員会が実施した第2号墳の試掘調査を嚆矢とし（第1次調査）、その後かながわ考古学財団が第1号墳、第2号墳の範囲確認調査を実施している（第2次調査）。今回の調査は通算すると第3次～第6次調査となり、以下各次の調査の経過について報告する。

第3次調査(平成18年度)

発掘調査は、平成18年8月21日から10月27日までの延べ39日間実施した。調査は想定主軸線から西に90度振った後円部西側に1トレンチ、後円部の想定主軸線上に位置する北側に2トレンチ、想定主軸線から東に90度振った後円部東側に3トレンチ、前方部東側に4トレンチを設定して行った。各トレンチの設定は、光波測距儀を用いて行った。

8月21日に調査機材搬入を開始し、調査範囲の草刈実施後、順次調査区の設定を行い、翌22日から1トレンチ、3トレンチの表土の掘り下げを開始した。8月28日からは2トレンチ、4トレンチの掘り下げを開始した。1トレンチではトレンチに一部かかる状態で埴輪列の一部と思われる埴輪が発見されたため、その保存状況を確認するため9月18日から一部拡張を行った。2トレンチではテラス上から多量の埴輪片が出土したため、10月13日から調査区を一部拡張し、出土状況の把握に努めた。3トレンチでは崩落の有無について追求するため、10月16日から崖面に向かって拡張を行った。10月19日から調査を終えたトレンチから順次埋め戻しを行い、多量の埴輪が出土し、その記録作業にかかった2トレンチの埋め戻しを終えた10月27日には機材を撤収しすべての調査を完了した。なお、原位置を保った状態で出土した埴輪については、山砂を用いて一旦被覆した後に掘削残土で埋め戻し、さらに土嚢、金網等により保護養生を行っている。

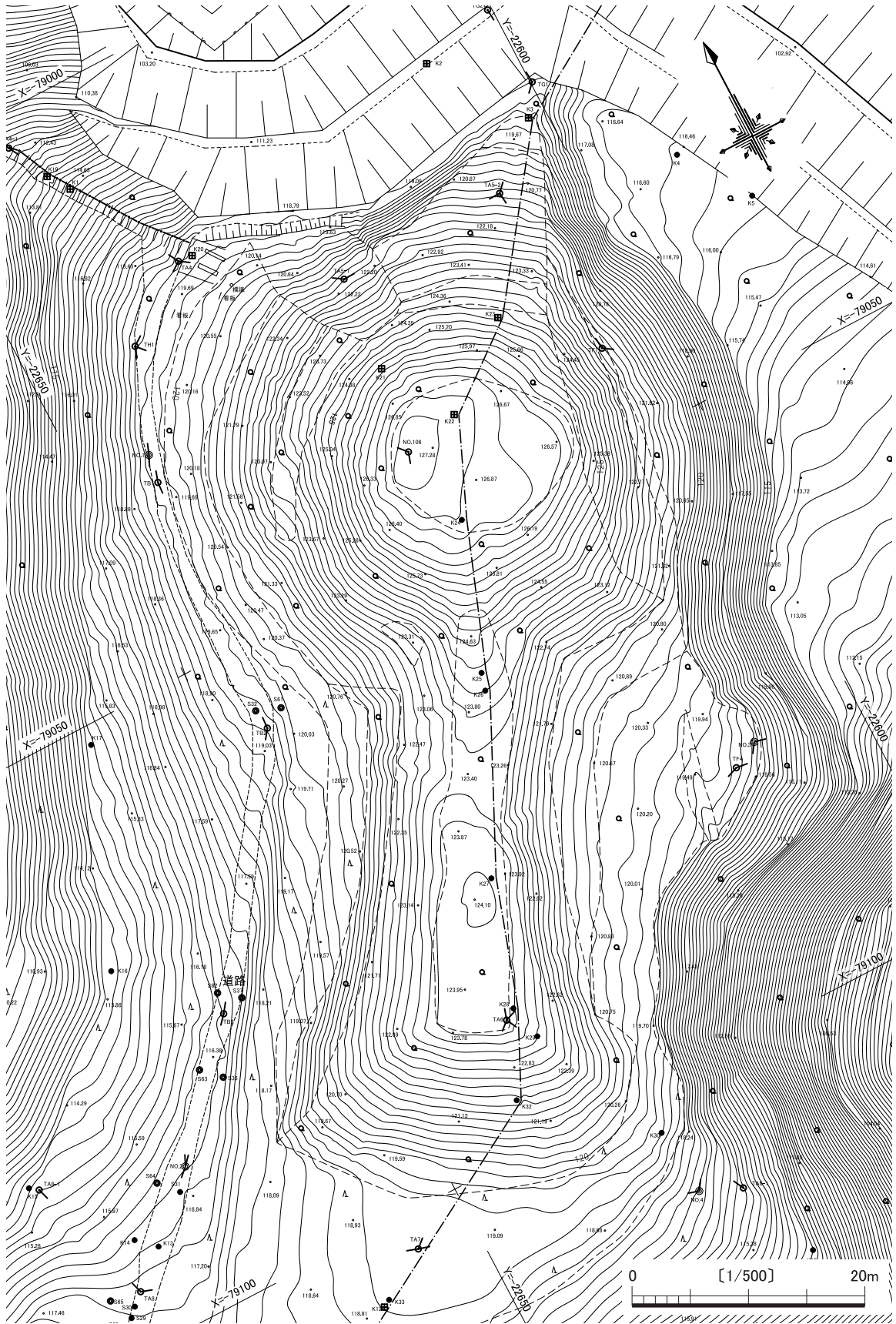
また、調査の結果、埴丘堆積土が極めて薄いことが明らかになり、立入りが自由な状況は、埴丘及び埴輪列の保護の観点から好ましくないとの判断から、埴丘周囲にロープを張り、立入り禁止の措置を講じた。

10月4日には文化庁調査官清野孝之氏（当時）に現地視察、指導を頂いたほか、調査期間中に多くの考古学研究が来跡され、多くのご指導、ご教示を得ることができた。また、9月9日には現地説明会を開催し、逗子市民、葉山町民を中心に約250人の参加者があった。

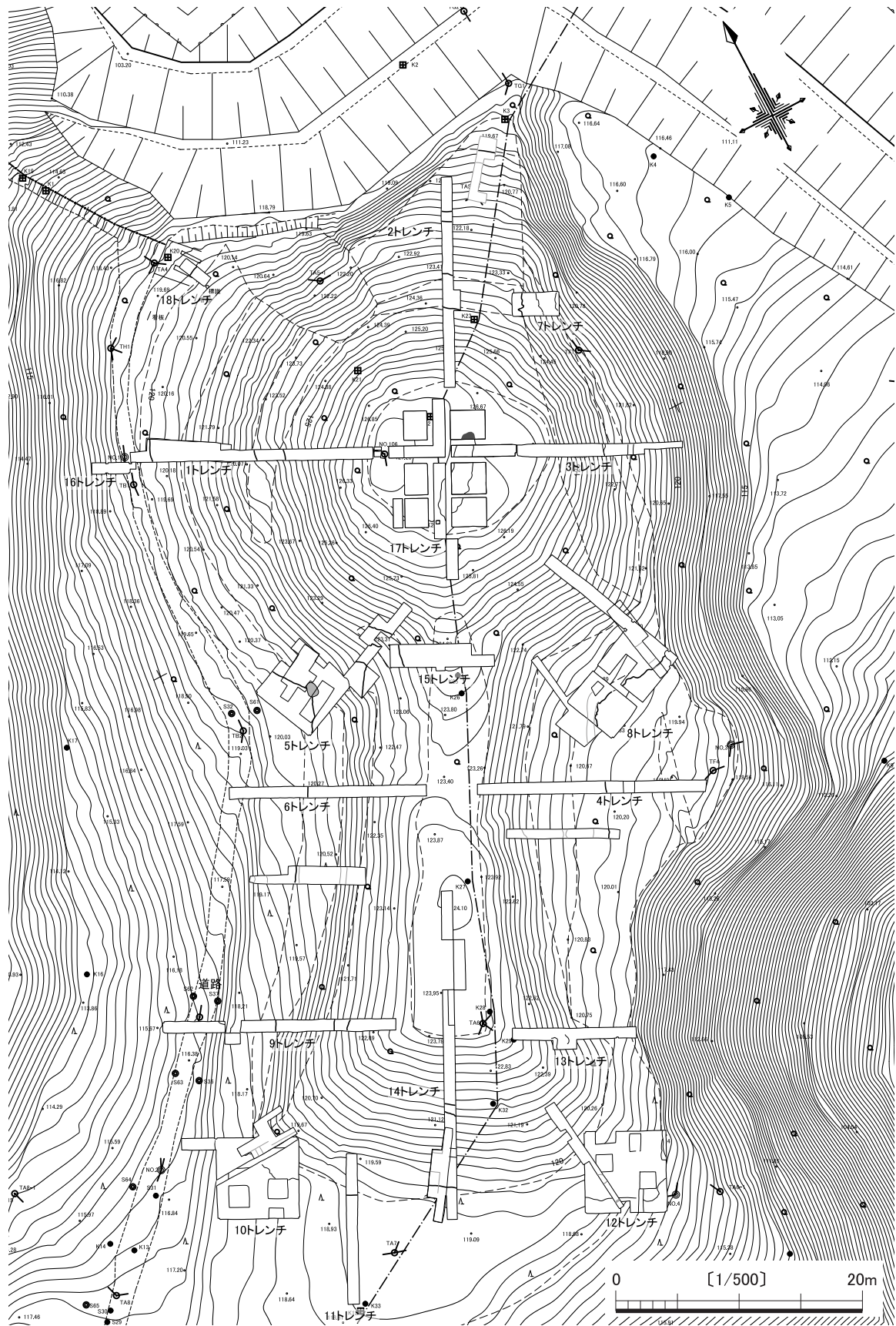
第4次調査(平成19年度)

発掘調査は、平成19年12月3日から平成20年2月22日までの延べ48日間実施した。調査は西側くびれ部に5トレンチ、想定主軸線上に直交し、昨年度調査を行った4トレンチの反対側にあたる前方部西側に6トレンチ、後円部北東側に7トレンチ、東側くびれ部に8トレンチの計4箇所のトレンチを設定して行った。各トレンチの設定は、光波測距儀を用いて行った。

12月3日から機材を搬入し、5、6トレンチを設定し、5トレンチは重複する2次調査9トレンチの埋め戻し土の除去から、6トレンチは表土の掘り下げにとりかかった。12月10日からは7、8トレンチの調査区を設定し、翌11日から8トレンチで重複する2次調査5、6トレンチの埋め戻し土の除去にとりかかっ



第5図 第1号墳丘測量図 [1/500]



第6図 第1号墳調査区配置図〔1/500〕

た。7トレンチは年明けの1月7日から掘り下げにとりかかった。くびれ部に当たる4、8トレンチは土量が多く、掘削作業に時間を費やすことになり、とくに5トレンチでは多量の埴輪片が出土したことから、その記録作業に時間を要した。2月3日の降雪により、翌4日は雪かきに一日を費やすこともあったが、2月14日からは作業が完了したトレンチの順に埋め戻し作業を行い、2月21日には全ての調査区の埋め戻しを終えた。翌22日には調査機材を撤収し、すべての調査を完了した。

なお、1月11日には調査指導委員会を開催し、現地での指導を受けたほか、多くの考古学研究者が来跡され、調査方法・出土遺物などについて多くのご指導、ご教示を得ることができた。また、1月19日は現地説明会を開催し、283人の参加者があった。

第5次調査(平成20年度)

発掘調査は、平成20年9月29日から12月19日までの延べ52日間実施した。調査は想定主軸線上に直交する前方部西側に9トレンチ、前方部東隅角に10トレンチ、前方部全面西部から平坦面にかけて11トレンチ、前方部西隅角に12トレンチ、想定主軸線に直交する前方部東側に13トレンチの計5箇所のトレンチを設定して調査を実施している。各トレンチの設定は、光波測距儀を用いて行った。

降雨が続いたため、10月2日に13トレンチ、9トレンチの順に調査区を設定、掘り下げに取りかかった。10月21日には9トレンチの墳丘西側の段差部分の肩部から盛土が検出され、広がりを確認するため11月4日には10トレンチ東側を一部拡張した。11月14日には整備基本計画策定委員会委員による現地視察及び指導を受け、10、11、12トレンチ墳丘盛土の断割りを行った。12月4日、13トレンチテラス上で土坑を確認した。12月16日から作業を終了した調査区から埋め戻しを行い12月19日にはすべての調査区の埋め戻しを終了、機材を撤収し調査を完了した。なお、11月22日には現地説明会を開催し、約180人の参加者があった。

第6次調査(平成21年度)

発掘調査は、平成21年8月6日から12月17日までの延べ56日間実施した。調査は前方部前面墳裾から墳頂部に14トレンチ、隆起斜道に15トレンチ、後円部西側に16トレンチ、後円部墳頂部17トレンチ、後円部北西側に18トレンチの計4箇所のトレンチを設定して調査を実施している。各トレンチの設定は、光波測距儀を用いて行った。

8月6日から機材を搬入し、14トレンチ、15トレンチ、17トレンチを設定し、掘り下げに取りかかった。9月下旬には17トレンチで陥没坑と思われる黒色土のプランを確認し、写真撮影後の10月13日から一部掘り下げを開始した。14トレンチでは墳丘面までの状況が確認されたため、10月21日から墳頂部平坦面の一部で盛土の断割り調査に着手した。11月9日には埋葬施設確認のため幅50cmで断割り調査を行っていた後円部墳頂部で粘土槨の一部を確認した。

各トレンチは、基本的に表土層から移植ゴテによる掘り下げ作業を行い、遺物は表土層に含まれるものも含めて出土位置を記録し、原位置を保つものを除き、取り上げを行った。調査は原則として墳丘面までの確認に留めているが、埋葬施設の位置、構造、基数を確認するため、整備基本計画策定委員会(考古専門委員)・県教委の指導を受け、後円部墳頂部と前方部墳頂部で一部断割り調査を実施している。掘り下げ完了後は、必要な写真・図面等の記録作業を行い、調査を完了した。なお、遺構に関する記録は、必要に応じて光波測

距儀と遣り方等を併用して行った。出土遺物については基本的に全ての遺物出土位置を光波測距儀と遣り方を併用して記録を行った。

なお、調査の過程で整備基本計画策定委員会考古専門委員には現地での指導を受けたほか、多くの考古学研究者が来跡され、調査方法・出土遺物などについて多くのご指導・ご教示を得ることが出来た。また、10月31日は古墳の現地説明会を開催し、約180名の参加者があった。

調査終了後は、すべて埋め戻しを行った。

(2) 出土品等整理作業の経過

発掘作業を担当した逗子市、葉山町の担当職員が行った。ただし、出土品整理に係る諸作業の補助業務を委託により行った。なお、1つの遺構である第1号墳の発掘調査結果を正しく認識するため、逗子市、葉山町が実施した発掘作業の調査記録、出土遺物を総合して整理、検討する必要があることから、作業は一箇所において行った。

平成19年度

職員等により、平成18年度調査で出土した遺物の洗浄、注記を実施した。

平成20年度

平成20年12月22日～平成21年1月23日のうち、延べ5日間、補助業務委託により平成19～20年度調査で出土した遺物の洗浄、注記を、補助業務委託により行った。

平成22年度

平成22年6月24日～12月24日まで、補助業務委託により延べ112日間実施した。作業はまず、平成21年度に出土した遺物の洗浄、注記を行った後、接合及び復元作業を実施した。終了後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測作業及び拓本等を実施した。実測が終了した遺物から観察表作成及びトレース作業を行った。

遺構は、原図の確認作業及び下図作成を行った後、随時デジタルトレースを行った。遺物写真は復元が終了したものから随時撮影を行った。

平成23年度

遺物、遺構図等の最終確認を行った後、原稿執筆、編集作業を行った。



現地見学会の様子

第4章 基本層序

本遺跡の層序は次のとおりである。

長柄桜山古墳群が立地する丘陵は、第2章第1節のとおり、三浦層群逗子層を基盤とする。調査地点は標高120～127mを測る丘陵尾根筋に相当し、土層の堆積は全体に薄い。とくに墳丘斜面部は表土層直下で墳丘面となることから、一部で墳丘面や埴輪片が露出してしまうことがある。第8図に掲載した円筒埴輪は、市民・町民によるパトロール中に発見、回収された大型の円筒埴輪片である。発見者の報告によると、第1号墳後円部西側の墳丘斜面、ちょうど段築の中段テラスあたりで露出していたようである。

第Ⅰ層 黒褐色土 表土・攪乱

第Ⅱ層 黒褐色土 若干砂状を呈する。しまりややあるが、粘性は弱い。

第Ⅲ層 褐色土～暗褐色土 前方部墳丘側面の平坦面で確認される土層。逗子層泥岩粒を多く含んでいる。

前方部側面は後世の削平を受けており、Ⅲ層はその際に削り取られた墳丘構築土を由来とするものである。土層中からは中世末～近世初頭に相当する遺物が確認されており、前方部改変の時期もおおよそその頃と思われる。

第Ⅳ層 黒色土 遺物包含層墳裾から平坦面、及び段築テラス上や後円部墳頂部で確認される黒色土の堆積土である。後円部墳頂部で発見された埋葬施設陥没坑内の堆積土でもある。墳丘から流れ込んだ埴輪等の遺物を包含する。

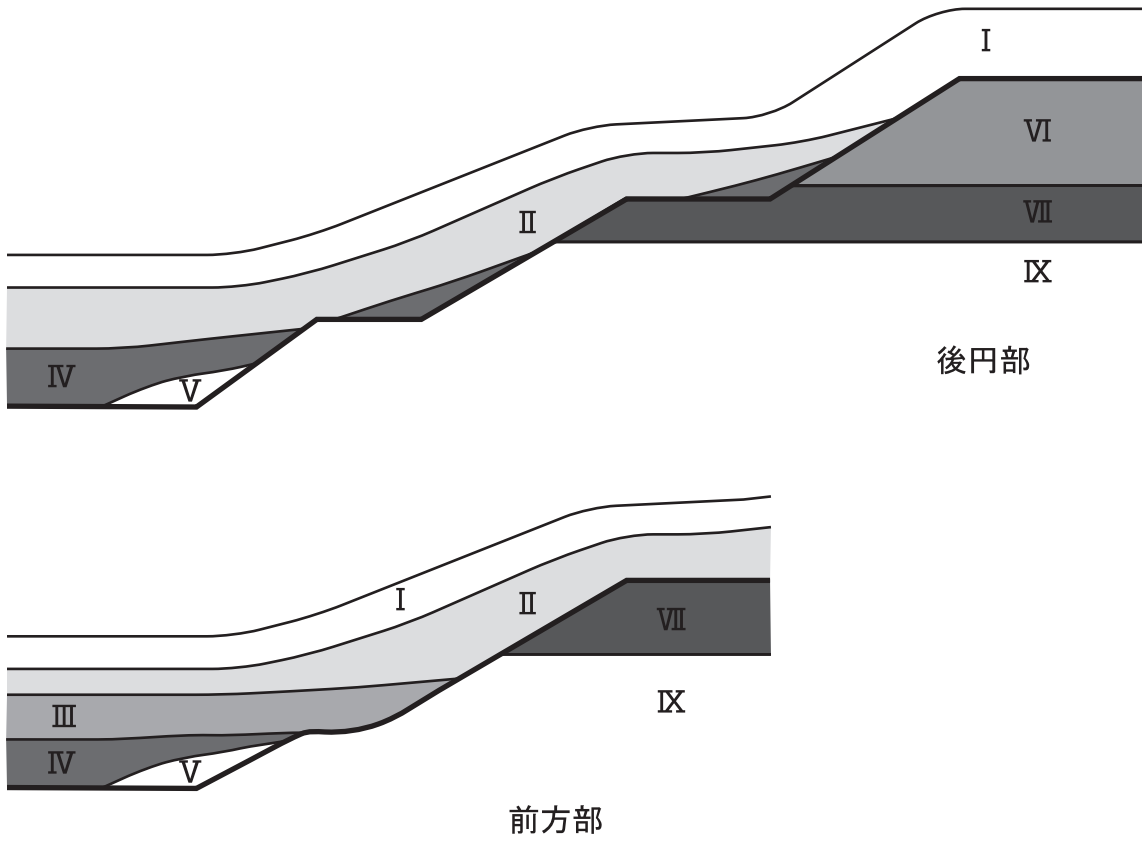
第Ⅴ層 暗褐色土～褐色土 初期流入土。墳裾から平坦面で確認される最下層の堆積土。墳丘構築後かなり早い段階で堆積したようであり、層中からは埴輪等の遺物は確認されていない。

第Ⅵ層 墳丘盛土層 主に後円部上半部及び前方部先端上半部、前面墳裾付近で確認されている。Ⅷ層主体層とⅨ層主体層を互層に積み上げ、表面をⅨ層主体層で仕上げる状況が確認されている。

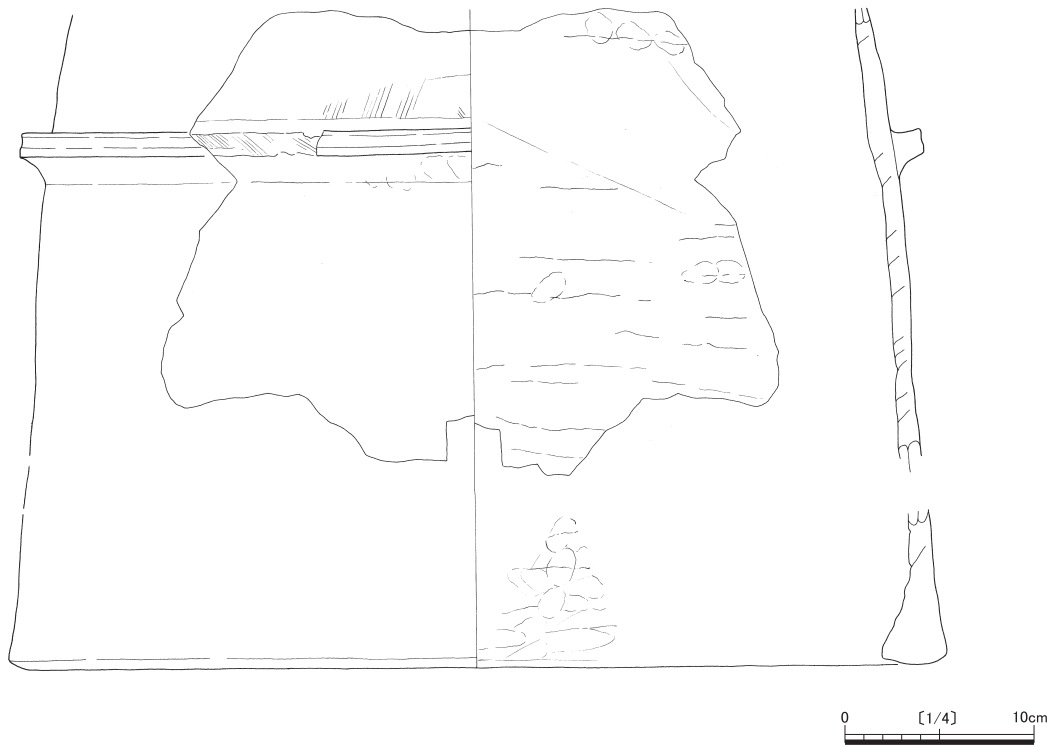
第Ⅶ層 黒色土地山層 主に墳丘上半部の構築面となる黒色土の自然堆積層である。しまり、粘性は強い。径2～10mm程度の逗子層泥岩粒を含む。

第Ⅷ層 暗褐色土～褐色土層 第1号墳では前方部西隅角でのみ確認されたローム層に相当すると思われる土層である。しまり、粘性は強い。逗子層泥岩粒の疎密や色調により細分できる。

第Ⅸ層 逗子層 丘陵基盤層であり、墳丘下半部の構築面となっている。墳丘東側の墳裾付近では泥岩層間に砂質の風化層の存在が確認されている。



第7図 基本土層模式図



第8図 第1号墳表採遺物〔1/4〕